

# 一般県道岩殿観音南戸守線

## アドバイス①

擁壁や橋脚の圧迫感を軽減する方法を考える。



土工部には長大なコンクリート壁面が立ち上がる。  
取付け道路は市街地に面するが、歩行者や居住者にとって圧迫感が大きい。  
付属物取付部からの雨垂れも目立ち、汚い印象がある。



擁壁の壁部をセットバックすることでも、圧迫感は大分軽減される。下部は地域住民が管理する植栽スペース等にできるとよい。



橋脚の隅角部に大きな面取りを施すだけでも、景観上の効果は大きい。

## アドバイス②

高欄上の付属物の取付け方を工夫する。



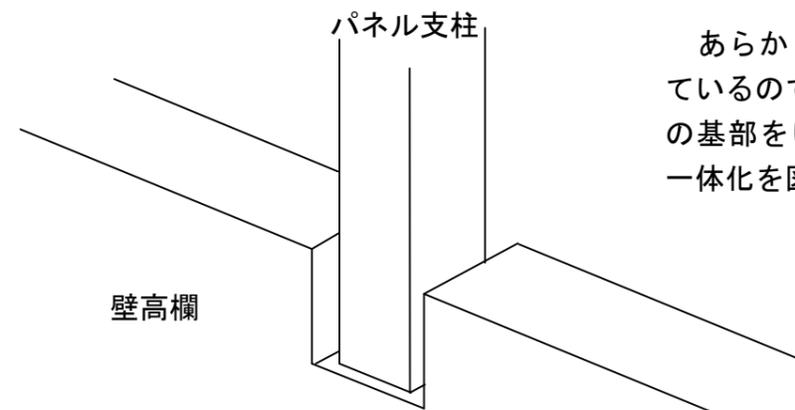
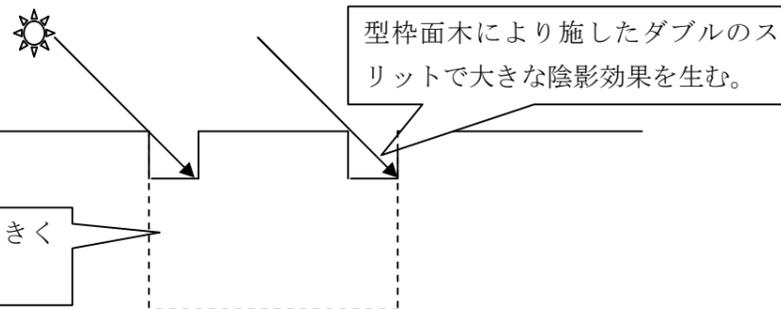
型枠面木により造形（スリット）を施したロックキーパー。支壁とスリットが擁壁全体のプロポーションを整えるとともに、スリットが表情を与え、深みのあるデザインとなっている。また、上部のスリットは、水切りの役目も果たしている。擁壁にも応用が可能なデザインである。



首都高速道路の壁高欄。照明等の設置箇所には曲面を使った張り出し部を設けた事例。これらのような壁面の造形には（型枠工などの）手間はかかるが、大きなコストアップにはつながらない。



市街地では周辺への視線遮蔽のためのパネルが取り付けられることも多いが、見た目が直線的に分節されていると一体性に欠ける。



あらかじめパネルの取付けが決定しているのであれば、壁高欄とパネル支柱の基部をいれこにすることで視覚的な一体化を図る。